

ボルネオにおける森林の生物と保護

森 豊彦

ボルネオ島全域の熱帯林の生物と森林資源の保護と管理が現在どのように進められているかを再確認するために、ボルネオで開催された国際会議に参加し、原生林と植林地を見学してきたので報告する。

ボルネオにおける森林の生物と保護に関する国際会議 (International Conference on Forest Biology and Conservation in Borneo) が1990年7月30日から8月3日までマレーシアのサバ州コタキナバル市で開催された。コタキナバル市はサバ州の州都であり、近代的なビルが立ち並ぶ都市である。また、東南アジアの最高峰であり、熱帯における動植物相が極めて豊かなキナバル山へ登る玄関口にあたる都市でもある。国際会議はサバ基金 (Yayasan Sabah) というサバ州政府が100%出資する財団の本部がある32階建のビル内で行われた。会議場は市街地から約5km離れた郊外に位置し、サバ州政治の重要な拠点である。また、会議場までの一般の交通機関は全くないため、会議開催期間のみ宿泊のホテルと会議場間を毎日の朝夕だけに送迎するバスが唯一の交通機関であり、午前9時から午後5時まで会議場に缶詰め状態であった。

このテーマの会議は初めて開催され、ボルネオ島全体 (マレーシア・インドネシア・ブルネイ) における森林の生物と森林資源の保護の現状を把握し、将来の方向性を見いだすための会議であった。講演発表の条件はボルネオにおいて研究されたものに限られ、会議の公用語は英語とマレーシア・インドネシア語であったが、ほとんどの講演は英語であった。参加者数は約250名、発表形式は口頭発表とポスター発表に分かれ、口頭発表数は68、ポスター発表は21であった。その外、マレーシア (サラワク州・サバ州) ・インドネシア・ブルネイの各国の代表者による講演、開催地のサバ州の首相とサバ基金の代表者による特別講演なども行われた。会場は口頭発表では2会場、ポスター発表では1会場であった。参加者の内訳は開催国マレーシアから、特にサバ州・サラワク州から多く、次いでインドネシア・イギリス・アメリカ合衆国・ブルネイ・日本・中国・オーストラリア・オランダ・フランス等から参加していた。日本人の発表者は私のほかに、京都大学霊長類研究所の鈴木晃氏の2名であった。また、確認できた日本からの参加者は、(財)日本野生生物研究センターからの3名であった。日本からの参加者が少なかった原因として、この国際会議の宣伝と広報が日本

MORI, Toyohiko : Forest Biology and Conservation in Borneo

〒617 京都府向日市寺戸町中野 2-1-103

に対してあまりなされていなかったことが一因であると考えられる。

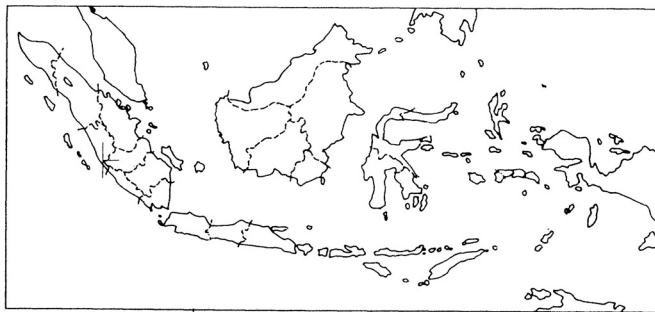
私は4～5年前サバ州森林研究所に勤務していたときに調査したサバ州の植林地におけるアオスジカミキリの近縁種 *Xystrocera festiva* の生態についてポスターセッションにおいて発表した。これは第5回日本動物行動学会で発表した内容に肉づけしたものである。つまり、ネムノキの一種 *Paraserianthes falcataria* (*Albizia falcataria*) の植林地における本種の大発生について、幼虫の令構成・生存率・集団摂食行動、成虫の生態などから大発生の原因などを考察し、熱帯の植林地における害虫化の問題点を提示した。このカミキリ幼虫の最大の特徴は、幼虫が健全木を集団摂食し、他のカミキリ幼虫にみられない摂食行動を行うことである。また、本種はシロアリに次いで *P. falcataria* 植林地における大害虫でありながら、有効な防除法がなく、現在、*P. falcataria* の植林は大被害を受けて枯死していると、サバ州森林研究所のスタッフが知らせてくれた。さらに、現在、ほとんどの *P. falcataria* 植林はこのカミキリの被害を受けてしまい、大発生は減少に向かっているという。以上の私の発表に対してマレーシアの人から害虫の防除等について熱心な質問を受け、林業と害虫への関心の高さが窺えた。

他の講演発表の分野は多岐にわたっていた。つまり、動物関係ではオランウータン、テングザル、テナガザル等の霊長類の講演が比較的多く、そのほかスマトラサイなどの哺乳類、ワニ、トカゲ、カエル等の両生・は虫類があり、鳥類・昆虫類・魚類は比較的少なかった。哺乳類の講演が多かったのは、主催者の一つとして世界野生生物保護基金(WWF)が入っていたことによるものと考えられる。次に、植物関係ではフタバガキ科などの生態、森林火災の影響、植物相、ラフレシアの生態、植物の分布、植物化学、薬草、森林と水など広範な分野にわたっていた。その他に森林保護、農村開発などの分野も比較的多くの講演があった。特に印象に残った講演は、オランウータンの分布や生態に関するものである。つまり、野生のオランウータンの生息状況はまだよく調査されておらず、今後の課題が多いこと、森林伐採や森林火災などによる生息地の減少があり人為的な影響も大きいことなどである。

会議の合間に、コタキナバル市郊外に本部があるサバ州林業開発公社(SAFODA)を訪問した。ここでは現在、日本の国際協力事業団(JICA)が林野庁の協力のもとにサバ州林業開発公社に対して技術協力を行っており、進行中のプロジェクトを見学した。このプロジェクトのチームリーダーである国井忠氏に造林開発教育プロジェクトの現場を案内していただいた。このプロジェクトの一環としての展示林や試験林の植林が行われているものの、限られた援助期間と予算内で技術協力を遂行することの困難さが感じられた。特に、このプロジェクトは現地の林業関係者に造林技術を講義と実習により教えることが目的であるが、マレーシア語だけしか理解できない現地人が多い中で言葉の障壁に苦勞されているようであった。林業は長年月の技術協力が必要とされる分野であるが、このサバ州でのプロジェクトは5年間であり、技術協力を行うのには短かすぎるのではないだろうか。このような内容には、少なくとも10年間程の継続した技術協力が必要であると考えられる。

会議終了後に、私が以前に在籍していたサンダカン市にあるサバ州森林局本部を訪問し、日本とマレーシアの技術協力に関して森林局長と懇談した。サバ州の木材資源が激減している中で、優れた林業技術をもち、木材の最大の輸出国である日本に対して早急な植林技術援助をして欲しいという森林局長の熱望の眼差しが今でも忘れられない。また、サンダカン郊外にある森林研究所、動物園及び自然教育園としての機能が進んでいるオランウータン療養センター、セピロックの原生林等を見学した。森林研究所は私が以前勤務していた頃と比べ、設備の充実ぶりはすばらしくなっていた。しかし、森林研究所の各部の部長が殆ど30才未満であり、経験も乏しく、研究成果を研究所発行の紀要数からみると業績が少なく、JICAの専門家レベルの技術協力が必要であると考えられる。森林局視察以外にゴマントン洞窟、テングザルの生息地等も見学して帰国した。

〔引用文献〕 Forest Department Sabah (1985). A special edition to mark world forestry day 1985. 108 p., Forest Department Sabah, Sabah. KEE, K.P. (1990). Forest biology and conservation in Borneo, A bibliography. 90 p., Yayasan Sabah and Universiti Kebangsaan Malasia (Sabah Campus), Sabah. LIEW, T.C. (1984). Proceedings: seminar on forest plantation development in Malaysia. 131 p., Forest Department Sabah, Sabah. MORI, T. (1985). Damage in hardwoods of *Shorea* spp. by ambrosia beetle, *Platypus* sp. (Coleoptera: Platypodidae), Forest Research Centre Bulletin Forestry Series No. 2 pl-9. Sabah., MORI, T. (1986). Handlist of insect pests of forest plantation in Sabah. Forest Research Centre Publication No. 28, 54 p., Sabah. MORI, T. (1990). Ecology of *Albizia* borer, *Xylocopa festiva* (Coleoptera: Cerambycidae) in forest plantation of Sabah. Extended Abstracts of papers of International Conference on Forest Biology and Conservation in Borneo: p. 144, Yayasan Sabah, Sabah. Sabah Forestry Department (1989). Forestry in Sabah, 164 p., Sabah Forestry Department, Sabah.



東南アジア諸島